

なぜ計算情報科学・技術を学ぶか？

その2

最低限知識の確認と さらなる飛躍にむけて

石渡正樹・小高正嗣・倉本圭

北海道大学 大学院理学研究院・理学院宇宙理学専攻

林 祥介・高橋芳幸

神戸大学 大学院理学研究科・惑星学専攻

はしもとじょーじ

岡山大学 大学院自然科学研究科・地球科学専攻

2019年7月19日

目次

- **情報実験の目標の確認**
 - 具体的な目標と, その先にある高い理想
- **最低限知識の確認**
 - 技術知識編, 利用者知識編
- **さらなる飛躍にむけて**
 - 大学におけるネットワーク管理
 - 知の情報化
 - ・ 知見プラットフォームの試み(地球流体電脳倶楽部)
 - ・ ネットワーク上での知識提供実験(mosirプロジェクト)
- **近傍における活動と展開**
 - 知の情報化に向けた教育研究活動とサーバ運営
- **今後の活動**
 - EPnetFaN の紹介

情報実験の目標の確認

情報実習の具体的な目標

- 情報環境の技術的基本概念

- 計算機(パソコン)の構造(CPU・メモリ・etc.)
- Unix(Linux)・Internet・X Window System

を実体験し、自分の情報環境は自分で構築・維持できるようにする

- 自分の置かれているネットワーク環境がどのように維持管理されているかを知る

情報実習の先にある高い理想

- 計算機・ネットワークに関する高いスキル
(技術と倫理)を身につけ, 情報の発信者へ
 - 各研究室で活躍
 - 企業で / 個人事業者として活躍
- 地球惑星科学の情報化へ貢献できる人材が(勝手に)生まれる

最低限知識の確認： 技術知識編

最低限確認：技術知識編

自分の情報環境は自分で構築 & 周囲に迷惑をかけない

• 計算機あれこれ

– Unix(Linux)

- OS(基本ソフトウェア)の一つ
- 複数のユーザで使うことが前提
- カーネルとシェルからなる

– 主要な計算機ハードウェア

- メモリ, CPU, マザーボード, HDD, チップセット, バス, ...

– UEFI

- OSとハードウェアとを仲介するファームウェア

– OSのインストールと起動手順

- OSをインストールしないと計算機は使えない



最低限確認：技術知識編



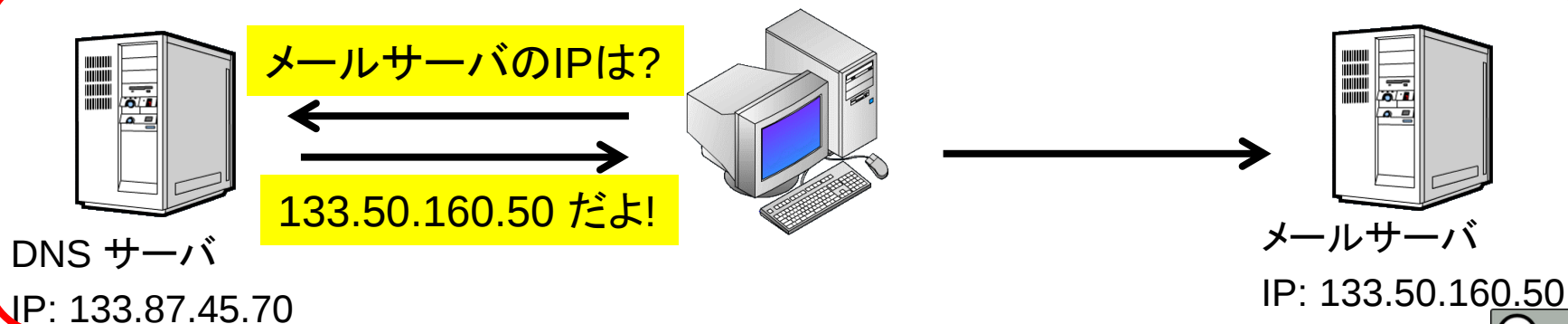
自分の情報環境は自分で構築 & 周囲に迷惑をかけない

・ ネットワーク基本単語あれこれ

- TCP/IP: データをパケットに分割、通信相手へ送信
 - ・ パラメータを正しく設定しないとつながらない！
 - ・ パラメータ: IP アドレス, ネットマスク, ネットワークアドレス, ゲートウェイアドレス, ブロードキャストアドレス, MACアドレス

133. 87. 45. 15
= 10000101. 01010111. 00101101. 00001111

- DNS : IP アドレスとドメイン名を対応させるシステム
 - ・ サーバを正しく設定しないとつながらない！



最低限確認：技術知識編

自分の情報環境は自分で構築 & 周囲に迷惑をかけない

- ネットワーク基本単語あれこれ

- ポートとデーモン：

- ・ データ(パケット)の窓口と管理プログラム

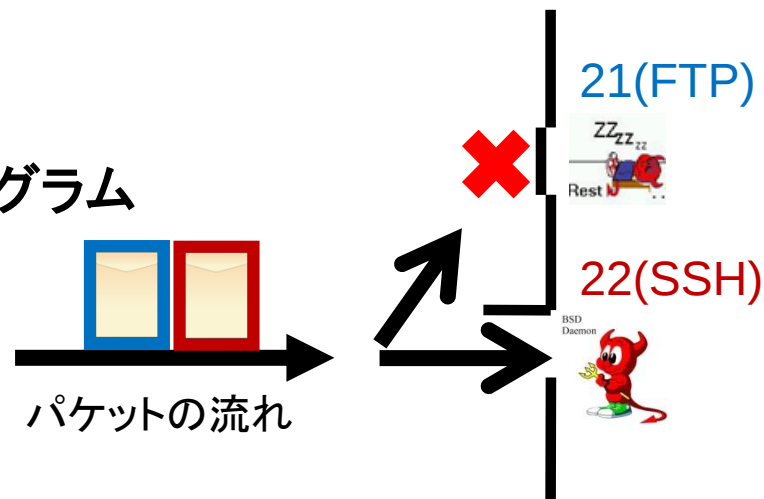
- クライアント・サーバ

- ネットワークを介した分業処理

- WWW

- ・ ネットワーク上の情報公開システム

- ・ HTTP/HTTPS プロトコルで通信,
HTML文書をやりとり



最低限知識の確認： 利用者知識編

最低限確認：利用者知識編

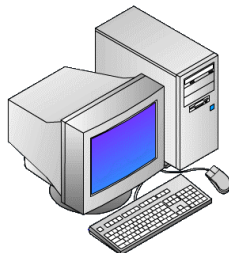
セキュリティに対する高い意識を持つ

- 自分を守る
 - アカウントの乗っ取り・自分の資源の不正利用・破壊を防ぐ
- 自分を守る＝仲間(大学・職場)を守る
 - 計算機内の他のユーザやグループの資源 の不正利用・破壊を防ぐ
 - 計算機の乗っ取りを防ぐ
- 自分を守る＝世界(ネットワーク全体)を守る
 - 乗っ取られた計算機による他の計算機資源・ネットワークへの攻撃を防ぐ

最低限確認：利用者知識編

セキュリティに対する高い意識を持つ

- ・ パスワードと暗号化：
アカウントと計算機の乗っ取りを防ぐために
 - － 良いパスワードをつける
 - ・ 自分にわかりやすく、他人に分かりにくいもの
 - ・ 10文字以上, 異なる文字・数字・記号を使う
 - － 辞書に載っている可能性のある文字列はダメ
 - － 暗号化通信を行う(偽装・盗聴・改ざんへの対抗策)
 - ・ リモートアクセス(ログイン・ファイル転送)には **SSH** , **SCP**
 - ・ WEB アクセス / メール送受信時には **SSL** / **TLS**



<http://northern-road.jp/discover/sign/aiueo.html>

<http://www.city.nayoro.lg.jp/section/kikaku/prkeq1000000q4bo.html>

最低限確認：利用者知識編

セキュリティに対する高い意識を持つ

- ネットワーク空間との接点を最小限にする

- 不要なポートは閉める
≡ 不要なデーモンを止める
≡ 不要なアプリケーション
ソフトウェアをアンインストール
- アクセス制限：必要外の
ホストからのアクセス遮断

- セキュリティホールをなくす

- セキュリティ情報の確認
 - JPCERT: <http://www.jpccert.or.jp>
- 最新資源へのアップデートを怠らない



JPCERTのwebトップページ

最低限確認：利用者知識編

ルールとマナーを守る

- 計算機・ネットワークを悪用しない
 - 例)他の計算機へのクラッキング, 誹謗中傷書き込み
 - 大原則: 現実世界でやっていけないことはインターネット空間でもやってはいけない
 - ・ 規制されていることはいろいろある
 - ・ 注意を怠れば罪に問われることも
 - 関連の深い法律と犯罪
 - ・ 不正アクセス禁止法, 個人情報保護法, 著作権法, ...
 - ・ 名誉毀損, 詐欺, 脅迫, ...
 - ・ 何が罰せられるかは日々変わる, 国によっても違う

さらなる飛躍に向けて:
**(1) 大学におけるネットワークの
管理体制に対する理解**

大学におけるネットワーク管理

資源とその管理体制を理解する

• 背景となる歴史

- 日本のインターネットは大学の研究プロジェクトから
 - ・ WIDE 1988 年～現在（村井純）
 - ・ TISN 1989 年～1996 年（釜江常好）
- 一般には1990年代半ばになってプロパイダが登場してから



<http://biography.sophia-it.com/imgb/bimu001.png>



<http://www.slac.stanford.edu/slac/faculty/hepfaculty/kamae.html>

• 大学におけるネットワーク管理の文化的背景

- 古き良き大学の精神
- 自分で自分の環境を構築, **自分の責任において何をやっても良い**
- **相互扶助精神**: 互いに協力してよりよいものを生み出す
- **自力更生**: 自分のことは自分でやる
- **無保証**であることの認識と覚悟

大学におけるネットワーク管理

資源とその管理体制を理解する

- 何が何処の管理に属するか
 - 重層的なハードウェア, ソフトウェア環境
 - 対応した重層的な管理組織
 - 技術管理者・政策管理者・危機管理者
- 障害発生レベルと対応した管理組織の掌握
 - 例: 大学でネットワークがつかない
 - ・ 使用している計算機の管理者
 - ・ 研究室ネットワークの管理者
 - ・ 大学部局ネットワークの運用者
 - ・ 学内ネットワークの管理者
 - ・ 大学間ネットワークの管理者

大学におけるネットワーク管理

資源とその管理体制を理解する

- 重層的なネットワーク環境

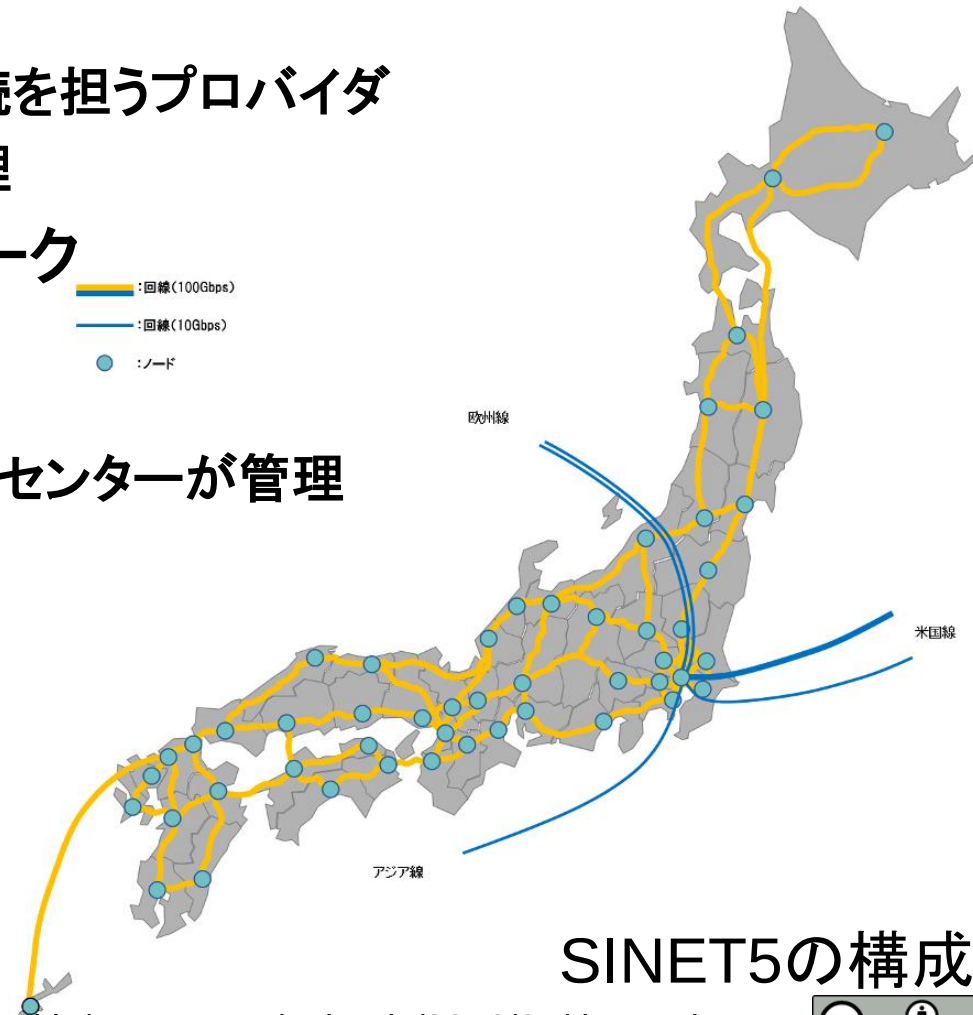
- SINET5

- ・ 文部科学省の大学間接続を担うプロバイダ
 - ・ 国立情報学研究所が管理

- 大学キャンパスネットワーク

- ・ HINES, UTnet, Kuins, ODnet, KHAN
 - ・ 北大(HINES)は情報基盤センターが管理

- 各部局、研究室



さらなる飛躍に向けて:

(2) 知の情報化

高い理想と それに向けて考えるべき問題

- 情報実習の先にある高い理想

- 計算機・ネットワークに関する高いスキル
(技術と倫理)を身につけ, 情報の発信者へ
- 情報技術を用いた地球惑星科学の推進へ貢献できる人材が(勝手に)生まれる

- 考えるべき問題

- 科学における情報の流通・加工・掌握の重要性が急増
 - ・ 観測や解析や数値計算に計算機やネットワークは必須
- 著しい細分化専門化
- 知の爆発への対応
 - ・ 観測や計算機の吐き出すデータは膨大

背景となる思想

- **Vannevar Bush(1945)**

MITの副学長, 第二次大戦中は国防研究委員会議長, レーダーから対潜水艦作戦, マンハッタン計画にいたるまでの兵器開発計画の監督

- **人類の課題は知の爆発への対応**

人類にとっての真の挑戦は

原子をさらに細かく調べたり
生命の複雑さを探求すること
ではなく

科学技術が氾濫させる情報の
よりよい管理方法を発見すること

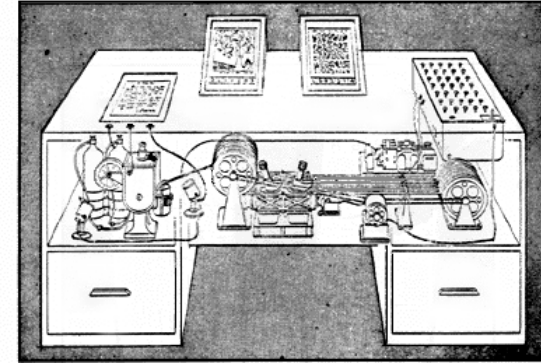


http://en.wikipedia.org/wiki/Vannevar_Bush

Bushが提起した問題への対応

Memexの概念図

- **Bushの夢はMemex**
 - 関連がある異種の情報をつなぎ付ける装置
- **現在はgoogleもWikipedia もある。
しかし。。**



<http://journal.systemone.at/spaces/journal/members/Michael+Schuster>

- **知の情報化は自分たちでやらねばならない**
 - 知見を並べる方法、格納の仕方は自分たちで考えないといけない
 - 集積した知見の取り出し方、組合せ方、加工の仕方は自分たちで考えないといけない
 - モデルも然り

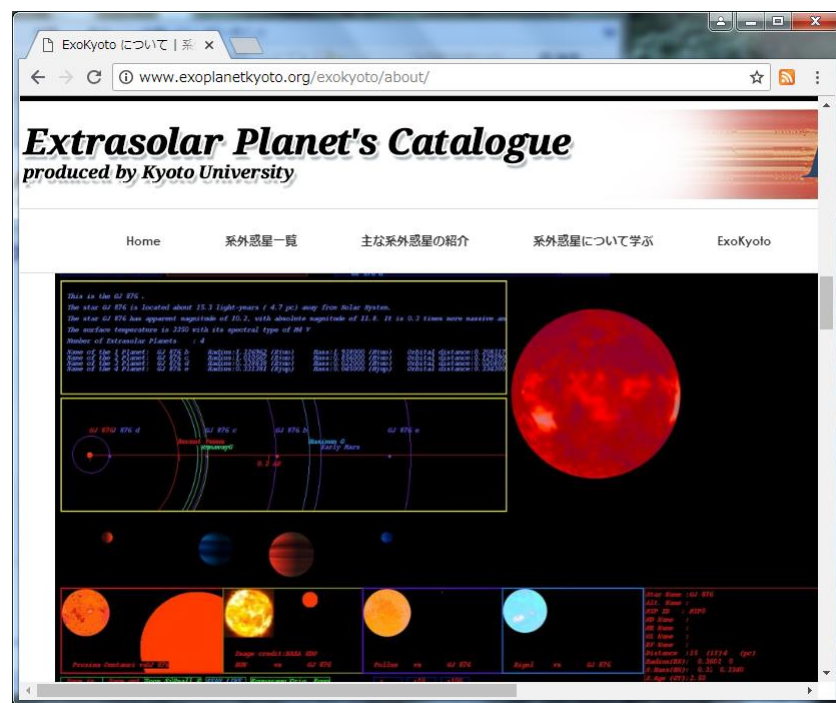
知の情報化の試み: データベース

- 計算機/ネットワーク上の辞典

- 検索しやすいように整理された知見の集積
 - ・ 図や表、ファイルに書く等のユーザインターフェースを備えていることが多い

- 例) ExoKyoto

- 京大で開発された系外惑星のデータベース
 - ・ 天球上の惑星の位置、ハビタブルゾーンを図示することもできる



- 当該分野の研究者が望ましい形を考えていく必要がある

知の情報化の試み： 知見プラットフォーム

- 地球流体電脳倶楽部
(<http://www.gfd-dennou.org>)



- 地球惑星(流体现象)にかかわる
諸々の知見をネットワーク上に
ためる, そのための道具作り
 - ネットワーク上の「教科書」
 - 地球流体室内実験集
 - 知見の集積装置としての地球
流体計算ソフトウェア群
(理想化モデルから気候モデルまで)
 - 数値データの可視化ツール開発
 - ...



知の情報化の試み： 知見プラットフォーム

- 惑星科学研究センター(CPS)
(<http://www.cps-jp.org>)

- ネットワークを用いた研究
基盤の構築

- 研究グループの持つ情報の
集積と共有, 公開の場を提供
- それらを基にした新しい知見
情報を生み出す活動の舞台
- 例)
惑星探査データ解析実習,
惑星探査(あかつき,
はやぶさ, かぐや, etc)の
企画・意見交換・データ解析

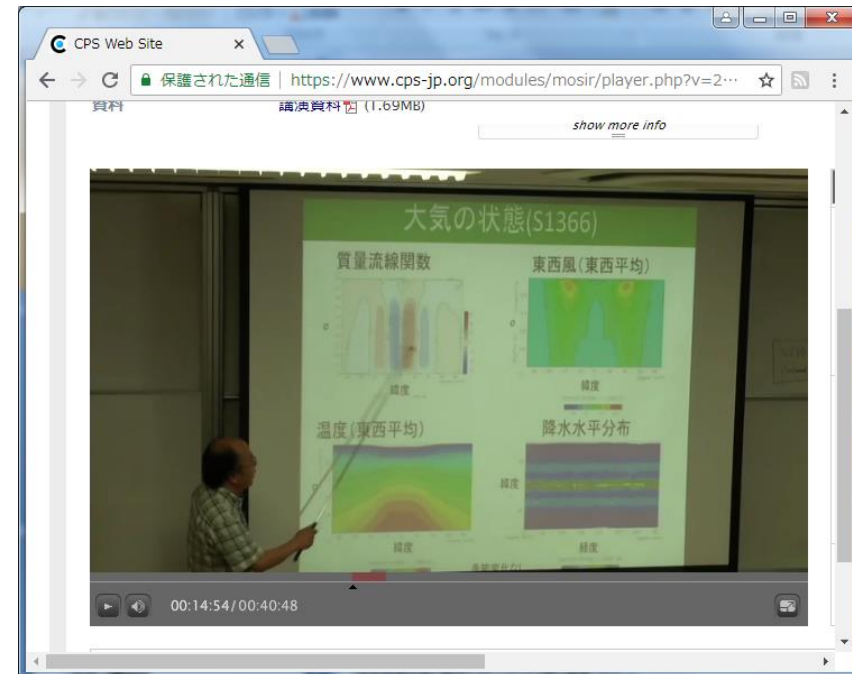


知の情報化の試み： ネットワーク上での知識提供実験

- Mosir プロジェクト

(<http://www.cps-jp.org/~mosir>)

- WIDE プロジェクトのSchool of Internet になった地球惑星科学業界の試み(北大 epnetfan の活動がルーツ)
 - ・ セミナー等の映像を資料と共に保存, 知見生産の現場自体を知見として集積
 - ・ ソフトウェア, 収録システム, サーバを自主開発・管理
- 対象は地球惑星科学に関連するさまざまな分野の講義・セミナー



モデルにまつわる状況

- 様々な大気・海洋モデルの開発公開
 - 欧米の研究所のモデル：
FMS, WRF, RAMS, ARPS, CCM...
 - これらのモデルは広く流通, 多くの日本人研究者も利用
 - ・ 「誰か」が作ってくれた数値モデルを使う方が短期的な業績は向上する
 - ・ しかし「誰か」の思考の枠組みから飛び出すことは困難になる
 - その結果「日本産業の空洞化」の恐れ
- 米国では基盤ソフトウェア開発にも力を入れている
 - 複数の大学が協力してUNIDATAを運営・維持
 - こういうものが日本には無い！

近傍における活動:

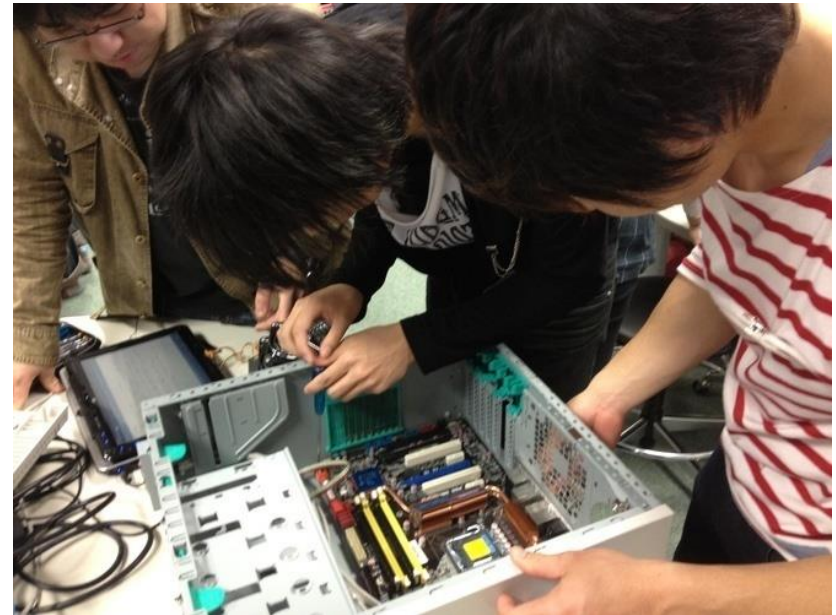
知の情報化に向けた情報教育研究活動

近傍における活動

- 知の情報化に向けた情報教育研究活動
 - KS(東大)
 - 情報実習 / EPnetFaN(北大)
 - ITPASS(神戸大)
 - 地球情報処理論(岡山大)
 - mosir プロジェクト, etc.
- そのためのサーバ・ネットワークの整備
 - EPサーバ群(北大)
 - ITPASS サーバ(神戸)

近傍における活動

- 知の情報化に向けた情報教育研究活動
 - 情報実習
 - EPnetFaN
 - mosir プロジェクト



近傍における活動

- 知の情報化に向けた情報教育研究活動
 - 計算数学 I / II (東京大学理学部数学科)
 - <http://utmsks.github.io/>
 - ITPASS 実習 (神戸大学理学部地球惑星科学科)
 - <http://itpass.scitec.kobe-u.ac.jp/exp/>



おわりに

(勝手に)期待すること

- 情報技術を用いた地球惑星科学の推進の担い手と
なって欲しい
 - 年寄りには役に立たない(手が動かない)
 - たとえば
 - ・ 数値気象モデルの利用者から開発者へ
 - ・ 惑星科学に関するデータベースのデザイナーへ
- 情報の「消費者」から「生産者」へ
 - 生産した情報を発信するためのしくみを知る・生み出す
 - ・ そのための自由な活動の場: EPnetFaN

おわりに

- 情報実験機を利用するためには
 - EPnetFaN に登録
 - 連絡先 epnetfan-ml@ep.sci.hokudai.ac.jp
 - 詳細説明はEPnetFaNマネージャより

おしまい
おつかれさまでした

参考書・参考文献

- 新井紀子, 2010: コンピュータが仕事を奪う, 日本経済新聞出版社
- 山岸俊男, 2000: 社会的ジレンマ「環境破壊」から「いじめ」まで一, PHP新書117, PHP研究所
- 内田樹, 2005: 先生はえらい,ちくまプリマー新書, 筑摩書房
- 内田樹, 2008: 街場の教育論, ミンマ社
- 水村美苗, 2008: 日本語が亡びるときー英語の世紀の中で,筑摩書房
- 松尾義之, 2015: 日本語の科学が世界を変える, 筑摩書房

参考書, 参考文献(初回掲載分)

- Bush, V., 1945: As we may think. Atlantic Monthly, 1945 July, 101-108.
<http://www.theatlantic.com/magazine/archive/1945/07/as-we-may-think/3881/>
- 朝日ジャーナル編1989: 世界経済三国志: 覇権の150年, 42節, 朝日新聞社
- D. Libes & S. Ressler 著, 坂本文 訳, 1990: Life with UNIX, アスキー.
- Tom Van Vleck ed. 1994: The Multicians web site
<http://www.multicians.org/>
- 村井純, 1997: インターネット, 岩波新書 新赤 416, 岩波書店.
- 歌田明弘, 2000: 本の未来はどうか 新しい記憶技術の時代へ, 中公新書 1562, 中央公論新社
- 坂村健, 2002: 痛快! コンピュータ学, 集英社文庫.
- 情報処理学会 2003: IPSJ コンピュータ博物館
<http://museum.ipsj.or.jp/index.html>
- 村井純, 2010: インターネット新時代, 岩波新書 新赤 1227, 岩波書店.
- ITホワイトボックス <http://www.nhk.or.jp/itwb/>
- 情報処理学会編 2010: 日本のコンピュータ史, オーム社

参考書, 参考文献(初回掲載分)

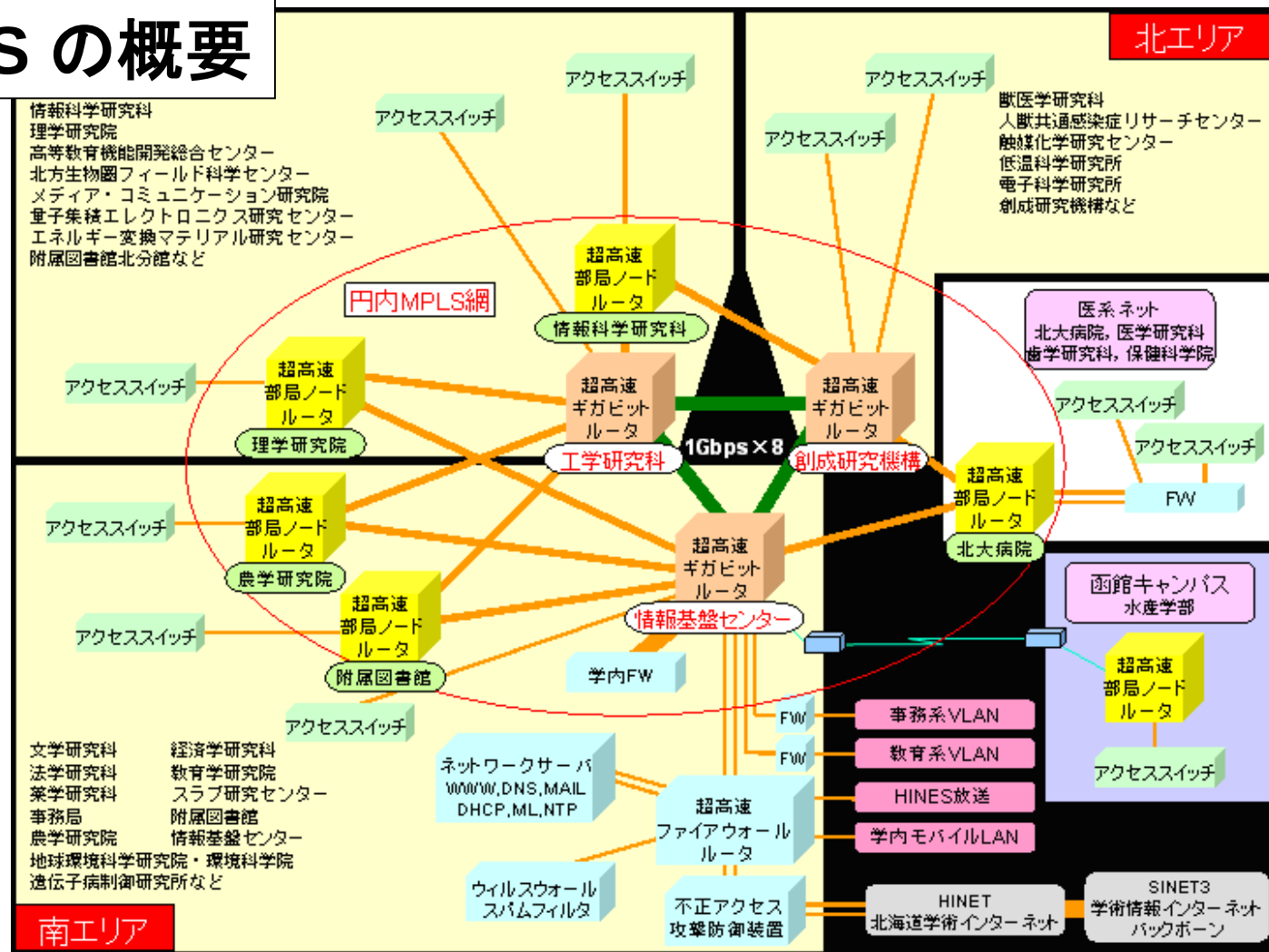
- 佐塚秀人, 2012: 計算機アーキテクチャ2012,
<https://sites.google.com/a/sazuka.net/arch2012/home>
- 福井健策, 2014: 誰が「知」を独占するのか -デジタルアーカイブ戦争-, 集英社
新書0756A, 集英社
- 西垣透, 2015: 集合知とは何か, 中公新書2203, 中央公論社
- 野口悠紀雄, 2016: 知の進化論, 百科全書・グーグル・人工知能, 朝日新書590,
朝日新聞出版
- 西垣透, 2016: ビッグデータと人工知能, 中公新書2384, 中央公論社

資料

大学におけるネットワーク管理

資源とその管理体制を理解する

HINES の概要



<https://www.hines.hokudai.ac.jp/about/index/overview.png>

大学におけるネットワーク管理

資源とその管理体制を理解する

- 北大 / 理学 / この周辺でのネットワーク環境
 - HINES: Hokkaido university Information NEtwork System
 - 北大のキャンパスネットワーク
 - 情報基盤センター(総務企画部情報企画課IT推進グループ情報ネットワークチーム / 情報セキュリティチーム)が管理・運用
 - 理学ネットワーク委員会
 - 理学のネットワークに関する政策決定(理学情報システム等)
 - EP ネットワーク委員会 / 技術支援グループ(

我々が望むものは何か？

- **Wikipedia, Google で十分か？**
 - Wikipedia: 匿名性の問題
 - Google: 検索上位にかからない情報は捨てられる
 - ・ 集合知 ≠ 知の生産に必要な知
- **知の生産者にとって都合のよい知識の集積 / 引き出し方を模索する必要がある**
 - 種々の試行錯誤が必要(実際には大変)
 - 試行錯誤自体が一つの研究
 - ・ 例) 情報爆発時代に向けた新しいIT基盤技術の研究
http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/chukan-jigohyouka/1316704.htm

現代における Memex(？)

- インターネット辞典と検索エンジンによって「Memex」は実現したかのようにも見える
- **Wikipedia**
 - 幅広い分野の知見を網羅, ハイパーリンクによる相互参照
- **Google**
 - 「計算機に聞くと答えてくれる」の一つの形

地球惑星科学における知見の 集積場の例：大気大循環モデル

- 大気大循環モデル：大気の流れ、温度、水蒸気量などの物理量の時間発展を計算するソフトウェア
 - モデルを走らせると答えてくれる
- さまざまな物理過程が組み込まれている
 - 放射、乱流、雲過程、大気波動、etc.
 - 格子点間隔より小さいスケールの現象の効果も取り入れる（パラメタリゼーション）
 - 用いる理論・観測結果によって複数のパラメタリゼーションがある（様々なモデルが存在する）

大気大循環モデルにまつわる 課題

- 知識の体系付け方によって様々なモデルが存在
 - 個々人の体系付け方に応じてモデルがあってよい
 - ・ 一家に一台 GCM(大気大循環モデル)
- 実際には個々人が別々のモデルを持つのは難しい
 - モデルの計算結果を交換・共有したいとき、用いるモデルが異なると不便
- 知識体系の基盤となる共有しやすいモデルが要る
 - そのために望ましい形はどのようなものか？を考えるのが情報化の問題

大学におけるネットワーク管理

背景となる歴史と文化

- 日本のインターネットは大学から
 - ネットワーク接続研究に端を発する
 - 研究室から学科、学部、大学、研究所相互のネットワークを接続、自分のネットワーク上を他人のパケットが通過することを許容し、インターネットを作っていた
- 文化的背景は古き良き大学の精神
 - 自分で自分の環境を構築, **自分の責任において何をやっても良い**
 - **相互扶助精神**: 互いに協力してよりよいものを生み出す
 - **自力更生**: 自分のことは自分でやる
 - **無保証**であることの認識と覚悟

情報実習関係のネットワーク運用体制

- EPネットワーク委員会 (netcom)

- <http://www.ep.sci.hokudai.ac.jp/~netcom/>
- 関連教員による運用政策決定の場

- EPネットワーク技術支援グループ (epcore)

- <http://www.ep.sci.hokudai.ac.jp/~epcore/>
- 学生ボランティアグループ, EPnetFaN の運営

- EPnetFaN

- <http://www.ep.sci.hokudai.ac.jp/~epnetfan/>
- 相互扶助的勉強会, epcore メンバー養成, 情報実験運営

- 情報実習 (INEX)

- <http://www.ep.sci.hokudai.ac.jp/~inex/>
- 支援グループ等々に迷惑かけないための啓蒙, ボランティア養成
- 情報科学的アプローチのできる地球惑星分野の科学者・技術者へのきっかけ